

渋谷区スポーツ推進計画策定委員 アイデアシート

No.	<p style="text-align: center;">【タイトル】</p> <p style="text-align: center;">内 容</p>
1	<p>【世界のシブヤへ「半世紀後それはシブヤの文化となる」相撲世界大会「シブヤカップ」創設】</p> <p>2020年東京大会を機に、年に一度住民が活気付き、市民が誇りとし、世界と日本を結びつけるような相撲イベントを創設する。相撲協会、日本相撲連盟とも協力し、スクランブル交差点での横綱土俵入り、人気力士と子供の取り組み、子供トーナメントなどに加えて、世界相撲選手権の上位者を招待し、シブヤカップをかけたトーナメントを行い世界に発信する。世界が注目し、渋谷区民が心待ちするイベントに育てあげる。</p> <p>【三人制のバスケットボール「3×3」】</p> <p>プロの試合がショッピングセンターの広場で行われている。それを常時3千人位の人が見ている。通り過ぎていく人も見ているので、合計すると2万人の人が見ている。このようなことを駐車場や街中に空間をつくってやっていけば、プレイしている人を見て子どもがやろうと思うかもしれない。そこでオリンピックで「3×3」の競技会場をどこにするか検討している最中なので、渋谷区が手を挙げて、オリンピックのメイン会場に立候補する。</p>
2	<p>【健全者と障害者の一体型スポーツ教室】</p> <p>健全者と障害者において一緒にスポーツを実施できる体験教室等のイベントに健全者アスリートと障害者アスリートを同時に呼び、一緒に行う。</p> <p>【早朝の開館前の公共スポーツ施設の開放】</p> <p>現役の全国・関東クラスの選手を対象として、性別・年齢・障害を問わず公共スポーツ施設の早朝利用を推進する。</p> <p>【スポーツ公共施設の開館時間内でのアスリートの専用利用開放（隔週）】</p> <p>現役の全国・関東クラスの選手を対象として、性別・年齢・障害を問わず公共スポーツ施設に専用利用場所を確保し、使用してもらう。また、アスリートの練習場所開放後は利用したアスリートに体験教室やワンポイント指導などの企画をお願いする。</p> <p>【障害者スポーツプログラムの実施ボランティアも一緒に楽しむプログラム】</p> <p>障害者が社会において堂々とスポーツをできるようなプログラム内容の充実。例えば、自転車のロングライド体験会、ロングウォーキング体験会を障害者向けに実施し、一般の方全てにボランティアのお願いを実施する。</p> <p>最終的には障害者向けのイベントではなく、障害者も関係なく、お互いをサポートし、全員で楽しむ一般のイベントに育てていく。</p> <p>【渋谷区の競技大会にパラカテゴリーの増設】</p> <p>パラカテゴリーをつくり、パラのためのスペースを確保する。最低限の配慮を理解してもらい、それが当たり前の社会になるようにする。すべての人がどのような大会にでも参加できるような仕組みを渋谷区では東京大会を契機として作る。</p>

3	<p>【Active by Design】 デザインによって、公共空間で市民が楽しく運動できる機会を増やす。街路に描かれたグラフィックなど、ワクワクするようなデザインをまちなかに出現させ、おもわず体が動かしたくなることを提案する。</p>
	<p>【テクノロジーを使ったスポーツ観戦と運動】 渋谷区には多くのIT企業があり、彼らの知見をフルに活用した「スポーツ×テクノロジー」によって、まちなかで運動を「見る」と「する」場になっていくことを提案する。テクノロジーを使った東京ならではのパブリック・ビューイングを行い、そのレガシーとして、そこがさらにテクノロジーを使った運動の場と変わっていくというシナリオは世界にもポジティブに発信して行ける。</p>
4	<p>【小学校対抗42.195キロリレーマラソン・小学校クラス対抗リレーマラソン】 最近各地でリレーマラソンが少しずつ定着している背景もあるので運動不足気味の子供たちの体力増進とともに子供たちの健全育成、チームワークにもつながる。 ・2キロのくらいの周回で21人 ・1キロの周回で42人（人数が少ない場合は1人、2回の出走あり） 学年にもよるがおおよそ3～4時間くらいで終了。</p>
	<p>【代々木公園で競技用車いすの体験】 競技用の車いすは、なかなか体験出来ない。 また、限られている人しか体験も出来ないのもっと間口を広げる意味でも貸自転車とともに、その競技用車いすを貸し出す。</p>
	<p>【いつでも手軽に安全、安心にウォーキング】 遊歩道の設置。また、既存の遊歩道に距離表示。夜間でも早朝でも安全、安心に歩けるように夜間照明の設置。 ストレッチ出来る遊具や簡単に身体が伸ばせたり、懸垂の出来る鉄棒などの設置。</p>
	<p>【地区体育会のリニューアル】 既存の体育会は楽しく、親睦を兼ねて行っているが、そこで玉入れ、借り物競争的なものはそのまま楽しんで頂く。 その他の50m走、100m走、リレーなどはタイムを計り、また来年につなげてもらう工夫をする。</p>
5	<p>【Bリーグ、Jリーグ等の使用に向けたスマート・ベニューの整備】 例 ワルシャワ国立競技場、新アトランタスタジアム</p>
	<p>【スポーツビジネスシンクタンクの創設】 例 Sheffiled Hallam University, Sport Industry Research Centre</p>
	<p>【地元大学と地元企業とによる、スポーツビジネス人材の養成】 例 JFA スポーツマネジャーズカレッジ、スポーツマネジメントスクール</p>
	<p>【渋谷版健康スポーツアプリの開発】 例 FiNC、Fitbit</p>
	<p>【新しいスポーツの開発・普及】 例 超人スポーツ、ゆるスポーツ、サイバロン</p>
	<p>【廃校等の公共スポーツ施設の再利用】 例 千葉県でのR-Project</p>

	<p>【学校運動部活動の地域スポーツクラブ化】 例 NPO 法人ソシオ成岩スポーツクラブ</p>
	<p>【行動変容ステージモデルの活用にもとづいたアプローチ】 例 杉並区スポーツ推進計画</p>
	<p>【セカンドキャリア・デュアルキャリアを踏まえたアスリートの研修・育成】 例 一般社団法人アスリート・ネットワーク</p>
	<p>【女性スポーツの振興】 例 フィンランドのナイスティンピンク</p>
	<p>【リバーズ・インテグレーションの普及・推進】 障害者スポーツという言葉を使用せずに、車イスバスケットボール、ブラインドサッカーなどを普通の競技として普及させる</p>
	<p>【スポーツツーリズムの推進】 例 渋谷アドベンチャーレース</p>
	<p>【庁内にスポーツ産業振興課の設置】</p>
6	<p>【プロチームと連携した生涯スポーツ活動】 例・学校施設を活用したスポーツ機会の充実 ・区内商店街/地区とのフェスタ開催 ・スポーツとアートの融合</p>
	<p>【スポーツの力を活用したダイバーシティの浸透】 例・障がい者スポーツ体験によるダイバーシティ の理解促進 ・スポーツフェスタでの多世代交流、国際交流（大使館とのコラボレーション等） ・スポーツボランティアの育成 ・トップアスリートによるダイバーシティ講座</p>
	<p>【生涯スポーツ活動振興のための社会連携～ 渋谷スポーツラボ（仮称）～】 例・様々なスポーツ団体・企業・NPO・市民など、多様な人々がアイデアを出しあい、実験・協業していく場としての「渋谷スポーツラボ（仮称）」プロジェクト ・区に関わる企業・NPO・スポーツ団体・アスリートとの協創力強化 ・渋谷発の独自モデルとして、日本全国、世界に発信</p>
7	<p>【誰もが生涯を通じてスポーツに参加できる機会の創出】 小児・学生については、特に小学校での体育の時間を増やす 成人については、職場、仕事の前後、で産業医活動を通じて運動を推進していく。また何時でもできる体制、近所にある施設の宣伝が必要。 高齢者については、65歳になったら高齢者証とともに、運動・介護予防リハビリ等の補助券、無料券を発行して推進する。</p>
	<p>【公共空間を活用した運動機能の向上の推進】 全天候型の運動施設を考慮して、商業施設内にも歩行スペースを設ける。区内の道路脇に並木を植えでできるだけ影をつくる。また、椅子・ベンチを所々に作り、休憩所とする。若い人達は駅中か近くに、自転車をこいでもらえる場所を設け、電力発電としてもらう代わりに渋谷区で使えるポイントをインセンティブとして与える。</p>

	<p>【「見る」楽しみから「する」「支える」楽しみへと導くための環境の整備】</p> <p>スポーツを始めてない人には、まず見るスポーツの楽しみから知ってもらい、自分もやりたいに繋げるのは有効と思われる。そのためには自宅だけでなく、他の人達と楽しみを共有できるように、身近な場所で、例えば公民館や商業施設、区役所やコンビニの店舗内などでも座って観戦ができるような場所を設ける。</p>
8	<p>【スポーツしてエネルギーをつくっちゃおう！】</p> <p>公園、スポーツセンター、区役所、出張所、駅のホーム、バス停、会社の屋上、社員食堂の一角、街の色々なところに、足踏みしたり、ランニングするとエネルギーが作れる器具を設置する。運動した時間によりクーポン券が発行され、貯めるとキャンディーや飲物と交換できるようにするというおまけをつくる。</p> <p>【いつでもどこでも誰とでもスポーツを楽しもう！】</p> <p>各地域のスポーツ関係の組織（地区体育会、学校施設開放委員会、地域総合型クラブ）をまとめて一つの組織にする。</p> <p>人材、予算を合わせたことにより、活動の幅が広がり、効率的に運営できるのではないか。</p>
9	<p>【「渋谷体育の日」の制定（「シブヤスポーツデイ」制定）】</p> <p>渋谷区民を対象にスポーツを啓発し振興させるため、区独自のスポーツデイを制定して区民その他多数が楽しめるスポーツイベント、身体を動かすイベントを実施する。</p> <p>【「渋谷版ラジオ体操」の新設】</p> <p>現行ラジオ体操の取り組みやすさを保持しつつ、渋谷区オリジナルのラジオ体操を開発する。動きやすさはもちろんのこと、ヒップホップなど渋谷若者文化に起因する動作なども簡易にアレンジして取り入れ、老若男女問わず楽しめ、運動に親しめるものとする。伴奏もテンポ良いものに。</p> <p>「渋谷のラジオ」で朝昼晩と放映し普及を図るとともに、シブヤスポーツデイや区民の広場等で、代々木公園にて数千人規模で体操を行う。</p> <p>【区内 11 地区体育会の統合運動会】</p> <p>現状、各地区体育会にて実施の傘下町会対抗運動会の上位版を用意する。（地区体育会対抗競技を用意する。シブヤスポーツデイで、それを実施しても面白いと思います）。</p> <p>競技は例えば「綱引き」などとし、簡単で、誰でも楽しめ、チームワークを発揮しやすいものとする。</p> <p>小学生対抗綱引き、中学生対抗綱引き、大人、シニアなど、適宜、チームを分けて実施。</p> <p>【渋谷版「全力坂」の指定と坂上がり競争イベント】</p> <p>テレビ朝日で深夜放映の「全力坂」（坂を全力で走り駆け上がる）の渋谷版。</p> <p>渋谷にはたくさんの坂があるため、いくつかの坂を渋谷全力坂指定するとともに、そこで坂を全力で駆け上がるイベントを実施する。年齢別、校種別などで分ける。シニアは上るだけでも可。</p> <p>【「渋谷のいろいろめぐり（スタンプラリー）」】</p> <p>渋谷区内の名所、史跡、観光スポットなど複数のコースを用意してスタンプラリーを実施。クリアした方には地域商品券などを配布して地域活性化にもつなげる。</p>
10	<p>【国技紹介フェス】</p> <p>対象 外国人、どなたでも</p> <p>概要 渋谷区在住の外国人の方に、自国の国技を紹介してもらおう。日本語に限らず、各国の言語でその国の文化、歴史なども含めて紹介する機会となる。小学校で総合的な学習の時間を活用するのも可能では。体育、社会、国際理解教育という教科横断的な取り組みとなる。</p>

【区立スポーツチーム”シブヤクラブ(シブクラ)”の創設】

対象 どなたでも

概要 区で運営する（または区の協賛で渋谷区の事業者が参画して運営する）スポーツチームの設置。NPO 法人に区が協賛することは不可能?なので、例えばあくまでも区立のスポーツ施設帰属の団体という位置付けにする。年代、性別、所属を超えた組織づくりが狙い。剣道、ポッチャ、ボルダリングなど多様なディヴィジョンを設けて、区立のスポーツ設備や渋谷区にある大学の体育館、グラウンドなどを利用する。区立の設備の稼働率アップも見込める。定期的に競技ごとにシブクラカップを開催して、地域の縁日やお祭り、フリマなどと共同開催にする。

【タグラグビー教室・大会】

対象 小学生以下の児童、その親、特別支援学校、通級に通う児童、生徒など

概要 現在、7人制女子ラグビーのフェニックスが富ヶ谷を基点に活動している。フェニックスは、富ヶ谷小学校の校庭を使用しているが、学校の校庭を利用してコンタクトプレーのないタグラグビー教室を開催する。近隣の学校で行うことによって、なかなか運動をする機会がなかったお母さん世代の方々も参加しやすくなる。ウェアを着たまま来て、汗をかいたらすぐ帰宅できる距離、というのが大切で、更衣室で着替えたり、汗をかいたまま電車に乗って帰宅する煩わしさや不快感を与えないことが「気軽な」スポーツ参加を促す。

【区立松濤中学校生徒アンケート集計】

11

- ・学校行事にスポーツ観戦を入れて欲しい
- ・公園にアスレチック施設をつくる センター街にもつくる
- ・大会が渋谷で開催される時は、区民にチケット割引する
- ・夜間、校庭を開放する
- ・バスケットを増やす
- ・日本選手を応援する日本全国共通の応援歌、コールを決めて積極的にいろんなところで使う
- ・海外みたいに公園にスポーツ器具をたくさん置く
- ・子供専用公園をつくる
- ・そもそも忙しすぎて時間がないから、もう少しゆとりのある生活づくりをする
- ・電車の中のテレビで試合を中継放送する
- ・おじいちゃんやおばあちゃんと共に運動する機会をつくる
- ・区民一斉の朝ランニングをする
- ・走った分だけクーポンや商品ポイントをだす
- ・街中にスポーツのできる遊具を設置する
- ・有名スポーツ選手が普通の場所でサプライズのパフォーマンスをする
- ・運動を勧める広告をティッシュに入れて配る
- ・定期的にランニングイベントを公園で開催する
- ・1週間、地域の人が松濤中の部活動に自由に参加し、一緒に体を動かせる期間をつくる
- ・学校の校庭を毎朝開放する
- ・学校で地域の人たちと一緒にスポーツをする(松濤中みたいに地域と一緒に運動会を行う)
- ・地域のお祭りや相撲やプロの人のアクロバットをやる(六号通り商店街の祭りではプロレスをやっている)
- ・ランニング専用の道をつくる
- ・こどもの城のような体を動かせる場所を作って欲しい
- ・身近な公園で、ラジオ体操のように地区単位でイベント企画をしてくれる方が参加しやすい
- ・ミニマラソン大会を月3回する

- ・渋谷区全体で大運動会をする
- ・スポーツ施設の充実。「トレーニング」や「プール」ができるスポーツ施設が多いから、珍しいスポーツを体験できるようにする
- ・チームしぶやを大人にも広げる
- ・スクランブル交差点に TSUTAYA より大きいスクリーンを作って、オリンピック中継を流す。そのために中継日はスクランブル交差点を封鎖する。終わった後も地域のスポーツを推進する宣伝ビデオを流す。※中継時は椅子を設置してみんなで応援する。テロ対策をしっかりと
- ・明治通りにできたショッピングモールに、スポーツ体験ブース、イベントをする
- ・代々木公園などの講演で様々な年代の人と縦割り班をランダムにつくり、色別チームにするなどして、広い公園を使った遊びやレクリエーションを行う